

Guideline for Preparing a Paper for the Annual Meeting of RIEMAM

【1行あける】

環境 一郎\*

Ichirou Kankyo

【1行あける】

*keywords* : RIEMAM, Environmental Management, submission of a paper

日本環境管理学会、環境の管理、論文投稿

【1行あける】

### 1. 論文投稿の方針

日本環境管理学会大会の研究発表会において学術講演を行うものは、この執筆要領に従って講演論文を作成し、提出しなければならない。

講演論文は、それ自体で調査・研究報告としての討論と保存に耐えられるものとし、調査・研究内容を明確に記述する。

各分野の専門家や関係者が読むことを前提として、研究の目的、考え方、方法、結論を記述する。

製品の宣伝・自己PR等、学会の調査・研究報告として相応しくない論文は受理しない。

学術論文に関連した、既往の研究や調査報告を整理して掲載する。

### 2. 原稿

原稿は、パソコンまたはワードプロセッサを用いて作成したものでなければならない。カラー可とする。

手書きの原稿は受理しない。

原稿の頁数は、2頁または4頁とする。

所定の原稿用紙はないが、A4版白紙の片面に、左右に20mm、上下に25mmの余白をとり、5項並びに6項に示す字体や文字の大きさ等の指示に従って作成する。

図表を含め、上記の枠内に読みやすいように割りつける。

提出するファイルサイズは3MB以下とする。

### 3. 学術講演梗概集

本会学術委員会は、提出期限までに提出された講演論文の査読を行い、論文受理の可否を決定する。その後、日本環境管理学会大会学術講演梗概集として、参加者にPDFを配布する。

### 4. 講演論文の構成

講演論文の構成は下記による。

- ① 題目と著者名
- ② キーワード（英語及び日本語）
- ③ 所属機関・学位（英語及び日本語・1頁目下欄）
- ④ 本文（本文は図・表・写真を含め、以下を標準とする）
  - (1) まえがき
  - (2) 本論
  - (3) 結論
  - (4) 謝辞
- ⑤ 注、引用文献、参考文献

### 5. 論文の題目・著者名・キーワード

論文の題目は、論文の内容を的確に表現したものでなければ

\*〇〇工業大学・工学部 教授・工博

prof., Faculty of Engineering, 〇〇Institute of Technology, Dr. Eng.

ならない。

共通する主題のもとで連続する数編を投稿する場合は、個々の論文には、その内容を具体的にあらわす題目を付し、共通の総主題は、副題（サブタイトル）として、その1、その2などにつける。

論文の題目は、12ポイントの大きさのゴシック体を使用して、中央に記載する。

次の行に、論文の英文題目を、10ポイントの大きさをCenturyを使用して、中央に記載する。

空白行を1行設けた次の行に、著者名を10ポイントの大きさのゴシック体を使用して、中央に記載する。

次の行に、著者の英文名称を、10ポイントの大きさをCenturyを使用して、中央に記載する。

空白行を1行設けた次の行に、イタリック体による“keywords:”の記載の後に3~5語程度の英文によるキーワードを、10ポイントの大きさをCenturyを使用して、中央に記載する。

次の行の中央に、10ポイントの大きさを、日本語によるキーワードをゴシック体を使用して記載する。

空白行を1行設けた次の行から、論文等の本文を記載する。

### 6. 講演論文の本文

講演論文の本文は、A4版白紙の片面に、左右に20mm、上下に25mmの余白をとり、この枠内に9ポイントの大きさの明朝体の文字を用いて、28字×55行、2段組、3,080字（28×55×2）で作成する。

なお、章節の番号を除く本文中の英数字は、半角のCentury体、9ポイントを用いる。

講演論文の文章は、ひらがな混じり口語体、現代かなづかいとし、原則として当用漢字を用いる。

数字、アルファベット、ギリシャ文字、上付き、下付き、大文字、小文字などのまぎらわしいものは明確にすること。

図、表及び写真は、文章に対応する箇所に張り付け、A4用紙に出力した場合に十分認識できるようにする。

図、表及び写真には、それぞれ、図1、図2、…、表1、表2、…、写真1、写真2…などと通し番号を付ける。

図、表及び写真には、内容を的確に表現する標題を必ず付ける。また、図及び写真の標題は図及び写真の下部に、表の標題は表の上部に付ける

数式には、(1)、(2)、(3)などの通し番号を付ける。

注は、講演論文本文には含まれないような詳細なコメントや意見を述べるもので、論文文章の後にまとめて掲載する。

引用文献は、引用順に番号を付し、注の後に番号順にまとめて掲載する。

参考文献は、引用文献の後に番号順にまとめて掲載する。文献番号は、文章中または図、表の引用箇所に<sup>1), 2)</sup>のように上付き文字を使用して明記する。

文献の記載方法は、次による。

a. 論文の場合

著者名：標題、誌名、Vol.、No.、発表年月、掲載頁の順とする。

b. 単行本の場合

著（編）者名：書名、発行所名、発行年月、掲載頁の順とする。

c. 著者名は、姓名で記す。ただし、著者が複数で多い場合、筆頭者以外は、ほか〇名としてもよい。

d. 欧文の場合には、筆頭者は姓を先に記す。また、連名者は「et al.」で省略することもできる。

e. 一般に公表されていない文献、たとえば未発表の論文、簡易印刷（コピーしたものなど）の委員会報告や社内報告および私信などは、文献として扱わない。必要な場合には注として記載する。

図、表等の引用・転載にあたっては、著作権所有者の許可を取らなければならない。

文献の記載例

[引用文献]

1. 申恵京, 水庭千鶴子, 近藤三雄: 酸化チタンの光触媒反応を利用した観葉植物によるホルムアルデヒドの除去可能性. 環境の管理. 2007, No. 63, p. 17-22

2. Sheppard, S. D. et al.: On Becoming a 21st Century Engineer, Journal of Engineering Education, Vol.97, No.3, July 2008, pp.232-233

3. 空気調和・衛生工学会編: 京都議定書目標達成に向けて 建築・都市エネルギーシステム新技術、空気調和・衛生工学、2007年10月、p. 62

[参考文献]

1. Lomborg, B. (Edited): Global Crises, Global Solutions, Cambridge Univ. Press, Cambridge, UK, Aug. 2004
2. 槌田 敦: 弱者のための「エントロピー経済学」入門、ほたる出版、2007年9月

7. 著作権

著者は、掲載された講演論文梗概の著作権の使用を本会に委託する。ただし、本会は、第三者から文献等の複製・引用・転載に関する許諾の要請があった場合には、原著者に連絡し許諾の確認を行う。著者が、自らの講演論文梗概を自らの用途のために使用することについての制限はない。なお、掲載された梗概をそのまま他の著作物に転載する場合には、出版権に関わるので本会に申し出る。本会は、編集出版権を所有する。

8. 電子形態による公開

研究発表会に発表された講演論文梗概は、本会及び本会が許諾したウェブサイトから全ページが公開される。

研究発表会時の質疑応答については、副司会の記録に基づいた情報を整理したうえで公開する。

2023年8月改定